

# 2015年度 ミクロ経済学中級Ib 期末試験解答

グレーヴァ香子担当クラス

1. 定理の主張：経済  $(\{u_i, \omega^i, \theta^i\}_{i=1}^N, \{Y^k\}_{k=1}^K)$  において、  
各消費者  $i$  について、効用関数  $u_i$  が局所非飽和性を満たすとき、任意の競争配分は効率的である。  
(「競争均衡」と書いた人はやや不正確だが点をあげました。仮定を書いていない人は減点。)

反例：局所非飽和が成立していない消費者を考えると、少なくとも一つの消費ベクトルが存在して、その周辺のどんな消費ベクトルをとっても、効用が高まらない。つまり、無差別曲線は帯状になっている部分があるか、飽和している消費ベクトルがあるというようなことになる。例えば帯状の無差別曲線があるとすると、その内部に競争配分がくる場合がある。このとき、少し配分を変更してもう一人の消費者の効用を厳密に上げて、かつ帯状の無差別曲線上にあるようにすればこの消費者の効用も下がらないようにできる。最終ページの図（これは帯の部分非常に大きい図だが）参照。

2. 各条件の定義をよく理解しよう。

- (a) 全員一致条件を満たす。全員が同じ順序であれば、1さんと2さんもそれと一致しているので (i) より社会的にもその順序になる。
- (b) IIA は成立しない。実際、 $(\succ_1, \succ_2, \dots)$  と  $(\succ_1, \hat{\succ}_2, \dots)$  の例で、他の人の選好順序の部分も両方とも同じだとすると、 $\{a, c\}$  については誰の順序も変化していないのに、社会的順序が  $a \sim c$  から  $a \succ c$  に変化している。
- (c) 非独裁性を満たす。3さん以降が独裁者になれないのは明らか。1さんは、例えば  $F(\succ_1, \succ_2, \dots)$  において  $\{b, c\}$  について自分の選好と社会の選好が一致していないので、独裁者ではない。2さんも同様に、例えば  $F(\succ_1, \succ_2, \dots)$  において  $\{a, b\}$  について自分の選好が社会に反映されていないので、独裁者ではない。

3. (a) assignment は3通りしかないので、しらみつぶしにやってみよう。

$(A, B), (C, D)$ : BさんとDさんは最も好まない人と同室になっているから、ペアの組み直しに合意でき、不安定。

$(A, D), (B, C)$ : 今度はAさんとCさんが最も好まない人と同室なので、同じ論理で不安定。

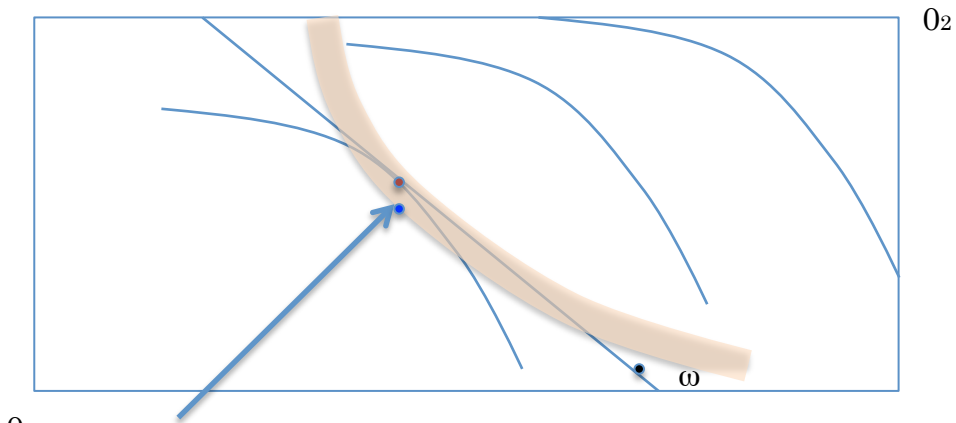
$(A, C), (B, D)$ : 全員が二位の人と同室だが、変更したい(ただ一人で、一位の)相手は自分を三位にしているからオーケーしない。ゆえにこれだけが安定。

- (b) A,B,Cの誰かはDさんと同室にならなくてはならない。しかも、この3人は3人の中の誰かに最も好まれているから、もう一つのペアの中に、その相手より自分を好んでいる人がいる。この2つのことからどんな assignment も不安定である。

例えば  $(A, D), (B, C)$  を考える。(他のケースも同様。) AさんはCさんと組み直して  $C \succ_A D$  かつ  $A \succ_C B$  となれる。

第1基本定理の反例：

1さんは局所非飽和が満たされていない、無差別曲線に幅がある



01 赤い○は競争配分だが、1さんの効用を下げずに  
2さんの効用を上げるような配分（青い○）が帯状の無差別曲線内の左  
下に存在